

# 実践ライブラリー：中学部 手織り「カイコの繭で手織りしよう」



理解力や洞察力は高い。初めてのことや細かな作業は少し苦手。大丈夫と思えると意欲的に頑張れる。



勤労の意義や流通の仕組みを理解して欲しい。

## ①第一次 カイコを育てよう！

- ・1学期にクラスでカイコを育てた。並行して国語でカイコの説明文を学習したり、理科で科学的な理解や、絹糸の歴史的な経緯などの学習を積んだ。
- ・小学部の児童にカイコのお世話について教えてあげる機会を設定し、どのように伝えるとわかりやすいか、国語の学習で取り上げた。
- ・餌やりなどのお世話は、はじめ自分から進んでできなかったが、友達が進んでお世話する様子を見て、できるようになった。
- ・繭を作る前に夏休みになったので、繭から成虫になる過程を映像で記録しておいて、見せた。

### おすすめポイント



育てたカイコの糸を紡いで、草木染めで色を付け、その糸を使って手織り作品を作ったことで、思い入れのある作品になった。また、実感を持って、製品が作られて流通していく仕組みを理解できた。

## ③第二次 カイコの繭で手織り作品作り

- ・農家で飼育するカイコの糸が繊維になり、ハンカチや着物になる事。製品を購入する人がいて、そのお金が循環して農家の人の収入になることを映像を用いて理解を深める活動に取り組んだ。
- ・昔から繊維は絹糸か綿花から作られ、現在も重用されている事を知り、産業社会・流通社会の仕組みに気づかせることができた。
- ・繭の糸を手で紡いで、草木染めで好きな色に染め、その糸を使って手織り機でオリジナルの布を制作した。
- ・第一次からの一連の学習により、将来働く上での勤労の意欲や働きがいにつながっていってくれればと期待し、取り組んだ。

今日勉強したこと感想を書きましょう

身近な糸が、こうやって作られている事が分かりました。角まわをなげると気持ち良かったです。

### 子どもの反応



カイコの出す糸が、繊維になり、その糸で布が作られて、シルクのハンカチや着物になる事に、新鮮な驚きを持って理解が進んだ。



カイコを教材とした学習を、一人の教員が行うのではなく、多くの教科や教員が関わることで、カイコの教材としての有効性が明らかになった。新たに関わった教員の意識も変わっていった。